科目ナンバリング							
授業科目名<英訳>	ILASセミナー：ごみ問題と３R・循環型社会形成 ILAS Seminar :Waste Management Issues and Material Cycles Society Developments by 3R Strategy of Reduce, Reuse and Recycling			担当者所属職名・氏名	環境安全保健機構 教授 酒井 伸一 環境安全保健機構 教授 平井 康宏 地球環境学舎 准教授 浅利 美鈴 環境安全保健機構 准教授 矢野 順也		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	受講定員(1回生定員)	10 (10) 人	配当学年	１回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	総合研究2号館013号室 (本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	循環型社会 / ごみ問題 / リサイクル / 資源循環 / 環境						

[授業の概要・目的]

「ごみ」は、世界中の人間、誰もが出して生きていると言っても過言ではないでしょう。しかし、我々（少なくとも一般市民の方々）は、どれだけ、「ごみ」のことを知っているでしょう？このゼミでは、ごみ（廃棄物）や廃棄物問題を科学的に捉えると同時に、その解決に向けた「３R」（リデュース・リユース・リサイクル）の考え方、それらを通じて実現しようとする「循環型社会」に関して、知見を深めることを目的とします。

循環型社会の形成は、世界の環境や資源の持続性から考えて、温暖化・気候変動対策とともに、２１世紀の一大テーマとなりつつあります。循環型社会が求められる背景としての廃棄物問題の現状を知り、循環型社会への処方箋を考えることは、持続可能な社会構築に向けた必須事項と言えるでしょう。

[到達目標]

循環型社会形成と廃棄物管理に関する幅広い知識をゼミ担当者やその研究室所属の大学院生から獲得するとともに、環境関連資料の原著論文を自らの力量で読解し、独自の提案ができる力を身に着けることを目標とします。

[授業計画と内容]

◆ごみに関する基礎的知見（初回～３回目程度）

まず、授業担当者からの序論により、廃棄物問題の構造と循環型社会形成への方向性を理解します。

◆ごみの科学や政策へ（４回目程度以降～１４回目）

そのうえで、さまざまなリサイクル技術や廃棄物処理方法について調査し、循環型社会形成に向けた視点からの考察を加えることとします。なお、今後の環境問題や廃棄物問題の世界の動向を理解する入口として、極力、英文に触れることのできる教材を選択する予定です。

◆４名の教員の役割と授業の進め方

本科目の授業開講時（月曜５限）には、原則として４名の教員が出席し、基礎的知見の提供や課題の考察の方向性について助言します。また、具体的な調査内容は、人数やテーマ、関心に応じて、個人作業やグループワークとします。授業担当の教員とともに先輩のゼミ生が作業（パソコンやソフト等の利用から文献検索、発表資料作成の方法まで）の支援も行います。

ILASセミナー：ごみ問題と３R・循環型社会形成(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：ごみ問題と３Ｒ・循環型社会形成(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

　レポート課題を課し、その報告レジュメとプレゼンテーションにより評価します。平常点としての出席状況も考慮します。レポート課題と平常点の評価はほぼ１対１の予定です。

[教科書]

使用しない
必要に応じて研究論文等を配布します。

[参考書等]

　（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

物質循環に関連する原著論文を読解することや関連した復習に取り組むことをお奨めします。

[その他（オフィスアワー等）]

　授業の主たる担当者は、京都大学の環境や廃棄物の管理に携わっている環境科学センターの教員です。学内実務に関わりながら、社会システム研究を進めていますので、その研究室活動にも参加可能となるよう配慮します。